

昨年開催した「明鏡橋思い出語り会」で、菅井敏夫氏（西町）、志藤正雄氏（栗木沢）に、旧明鏡橋の思い出についてお話しいただきました。一部要約になりますがご報告いたします。

朝日町宝ノート No. 0706 「明鏡橋の思い出」

仲を取り持つ明鏡橋

「ようぐ、こだい大きな機械来たもんだ」。
旧明鏡橋ができたのは、私が小学校を卒業するのと同じ年だったから、橋工事の様子や橋ができた時のことは良く覚えている。コンクリートを上げるタワーが高くそびえて、この静かな山村にゴーゴーと音が鳴り響いていた。子供ながらに、これは景気が良い、活気があるなと思っていた。

あの当時は戦争中だったから、我々小学生は、工事現場にたくさん落ちていた鉄筋などの鉄くず集めをよくやった。当時はヘルメットなんてなかったから、拾いに行くと「来んなず、この野郎べら」とごしやがれた。

橋が架かるまでは、大隅と栗木沢は、最上川をはさんでよく喧嘩したものだ。でも明鏡橋ができてからは喧嘩しなくなった。私の母親はいつも風呂からあがると、「ここは大巻、向がいは栗木沢、仲を取り持つ明鏡橋」。こういう歌を歌っていた。（菅井敏夫氏）

終戦直後の明鏡橋

私は昭和 14 年生まれだから、橋の方が 2 年先輩になる。小学校 5、6 年生の頃は、学校から帰ると、カバンなんかバーンと投げて、明鏡橋の下によく泳ぎに行ったものだった。橋から上流へ 150 メートル位の間が泳ぎ場所だった。

ある日、5、6 人で泳いでいると、明鏡橋の欄干の上で大人の声が出て、見上げてみると、欄干に 20 人ぐらいの大人が手をたたいたりして大声で笑っていた。しばらく立ち泳ぎしたりして遊んでいたら、上の方からチューインガム落としてくれた。落とせば、私たちが潜っては上がってくるから、その姿が面白かったのだと思う。今度はチョコレートも落としてくれた。そうやって 30

分くらい遊ばせてくれて、最後にハーモニカを投げてくれた。しかし、そのハーモニカだけは、やっぱり沈むの早くて、子供の私たちは誰一人拾うことができなかった。終戦直後だったから、ガムでもチョコレートでもとても珍しくて、大変貴重なものをいただいたなと思った。帰ってから親に「何であだい大人の人がいたんだ？」と聞くと、「アメリカの兵隊さんだ。進駐軍だ。」と教えてくれた。（志藤正雄氏）

恋の架け橋、ロマンの花咲く明鏡橋

あの頃は、明鏡橋さ、栗木沢の人も大隅の人も関係なく、みんな夜な夜な集まってきて夜遊びしていた。んだがら私は、橋ができたのがうれしくてうれしくて、何べんも橋の上を走ったもんだ。みんな集まってきて夕涼みして、男女の出会いの場になった。別名「恋の掛け橋」と私は思っていた。事実何組ものカップルが結ばれた。そういう意味でも、橋が架かって本当に良かったと思った。（菅井敏夫氏）

私の家は、旧明鏡橋のすぐ近くなので、青年会の方々が恋を囁いていたのをよく知っている。一晚に 30 人くらい集まって、「ワーワーワー」。笑った声、叫んだ声が聞こえ、それはすごかった。子供ながらにドキドキして眠れなかった。明鏡橋で何組も花が咲き、今でも幸せに家庭を持っている方がたくさんいらっしゃると思う。

もう一回、この明鏡橋を「ロマンの花を咲かせる朝日町の場所」にしたいというのが私の願いだな。（志藤正雄氏）



左より 志藤氏、菅井氏

プロフィール

菅井 敏夫（すがい としお）氏

大正 14 年和合大隅生まれ。朝日町観光協会会長時代に明鏡橋をゴールにした「最上川激流全国いかだ下りレース」を 10 年にわたり開催。又、世界唯一の空気神社・建立の立役者でもあり、現顧問。

志藤 正雄（しとう まさお）氏

昭和 14 年栗木沢生まれ。朝日町栗木沢区長。
現在、明鏡橋を見下ろす「桜公園」を、地区をあげて整備中。